

月刊 MARUSHO

2019年 7月号

丸 庄 発 、 選 り す ぐ り の 情 報 を お 届 け し ま す 。



今年も足立に大輪の花が咲きます

第41回 「足立の花火」は 7月20日(土)19:30～ 丸庄デザインの ポスターです

東京の大規模な夏の花火のトップをきって開催されることで有名な「足立の花火」

今年は「令和の夏も足立から・・・」と称して夏の花火がスタートします。

1時間で13,000発の花火を打ち上げ、平均1分間に210発以上。

高密度に凝縮された迫力ある花火が夜空を彩ります。



足立の花火は約100年の歴史があります

あだち観光ネットに足立の花火の歴史が紹介されていました。「足立の花火」の起源は、明治年間に千住大橋の落成を祝って、花火を打上げたのが始まりだと伝えられています。そして、大正13年8月13日、千住新橋の開通を記念して、「千住の花火大会」という名称で足立区に登場し、本格的に開催されていましたが、戦争の影響を受け、昭和14年を最後に姿を消します。戦争が終わり、昭和24年8月13日に区民待望の「千住の花火大会」が復活しました。当時の記録を見ると、「仕掛け花火30基、打上花火520発、人出60万人」という記録が残されています。しかし、河川改修により昭和34年を最後に「千住の花火大会」は幕を下ろすことになりました。

昭和50年頃になると、区民の間に足立の花火の復活を望む声が強くなり、足立区及び足立区観光協会（現在の足立区観光交流協会）では、昭和53年8月の区民納涼大会で約800発の花火を打ち上げたところ大変な人気を呼びま

した。そして、昭和54年8月に「千住の花火大会」から「足立の花火大会」へと名称を変え、登場します。20年ぶりの復活でした。観客30万人余が見上げる中、3,700発の花火が打ち上げられたそうです。途中、中断もありましたが、約100年の歴史を誇り、これからも残して行きたい足立の文化です。

足立の花火の見所

スターメインなど約1万3000発を1時間で打上げるため、高密度に凝縮された迫力ある花火で有名です。荒川土手の上から見ると迫力満点の花火が目の前で楽しめます。近年は、レーザー光線と花火をコラボさせた演出と、光るものを振る来場者参加型のプログラムもこの花火大会ならではのものです。好評だった「Wナイアガラ」の仕掛け花火や、レーザービームを使用した演出が今年も登場。フィナーレは『威風堂々』の音楽に合わせ、足立の夜空いっぱい咲く「黄金のしだれ桜」は鳥肌ものです。

第41回 足立の花火 開催概要

日 時: 2019年7月20日(土) 午後7時30分～午後8時30分
荒天の場合は中止。延期予定無し。

場 所: 荒川河川敷 (西新井橋～東京メトロ千代田線鉄橋間)

打上数: 約13,000発

昨年の来場者数: 66万人

交通・アクセス・最寄り駅

◎南側(千住・北千住駅側)

東武線、JR、東京メトロ「北千住駅」徒歩15分
日暮里・舎人ライナー「足立小台駅」徒歩25分

◎北側(梅田・西新井側)

東武線「小菅駅」「五反野駅」「梅島駅」徒歩15分

詳しい大会情報は、

あだち観光ネット

検索



あだち観光ネット



花火の豆知識

今年も各地でたくさんの花火大会が開催されています。「た～まや～」「か～ぎや～」のかけ声で有名な鍵屋、玉屋の二大花火師。江戸時代、両国川開きで人気を競ったそうで、それまで技術的に難しいとされていた、同心円状に飛散する花火を普及させた鍵屋だそうです。まだまだ、知らないことばかり、夏休みの自由研究に花火を研究してみるのはいかがでしょうか？

花火の色のひみつ

花火にさまざまな色があることを、不思議に思ったことはありませんか？火といえば赤色のイメージですが、青や緑、黄色や紫…いったい、どんな仕組みでこのような色になるのでしょうか…。

炎の色といえば、赤色を思い浮かべるかもしれませんが、実際は赤い炎だけではありません。金属を燃やすと炎の色は、赤だけでなく、さまざまな色があることがわかります。金属を燃やした時に、その金属の種類によって決まった色を放出することを「炎色反応」といいます。花火は、この「炎色反応」を利用しているのです。

一般的な打ち上げ花火では、大きな花火玉の中に2種類の火薬が入っています。ひとつは、上空で花火を割るための火薬。もうひとつが、丸い粒状の「星」と呼ばれる火薬で、花火の光のひとつずつとなりさまざまな色をだします。この「星」に「炎色反応」を起こす金属が含まれていて、上空で火薬により



燃えて「炎色反応」をおこし、金属の種類によって、さまざまな色を出します。

ちなみに上空に上がってから色が変化するタイプの花火がありますが、こうした花火の「星」は、真ん中にある芯に向かって、違う色の火薬をまぶしていく方法で作られています。この「星」が、上空で外側から燃えていくため、色が変わっていくのです。夏の風物詩、情緒あふれる花火ですが、その仕組みには、化学変化が利用されるのですね。

夜空を彩る〇〇のお値段は？

花火大会では一夜に何万発もの花火が打ち上げられます。花火の好きな方なら一度は気にしたことがあるであろう疑問ですが、花火って一発あたりいくらぐらいするのでしょうか？

一例として、打ち上げ花火の相場をご紹介しますと、

3号玉 = 4,000～5,000円 開花したときの直径が100m

4号玉 = 6,000円

5号玉 = 15,000円 (開花直径150m …意外とお手頃?)

7号玉 = 30,000円～

10号玉 = 10万円～ (1尺玉 開花直径320m)

20号玉 = 80万円～ (2尺玉 開花直径450m)

尺玉になると一気に値段が跳ね上がりますね。

ただし、これは花火単体の値段で、打ち上げるための設備や人件費、警備などの経費も別途必要になります。1万発規模の花火大会では、5,000万円～1億円ほどの費用がかかるのだとか…。数万～数十万の人を楽しませる花火、この値段は高いのでしょうか？安いのでしょうか？

ニッチな情報を毎週水曜日配信中! ▶ 週刊marusho バックナンバー Q SEARCH

広告スペースがないっ! そんな時はカウンターが大活躍! カウンターBOX

店頭販売など、
広告スペースが限られているときなど
カウンターが集客のお手伝いをします。
持ち運び、組み立てもラクラク簡単なのに
内側は収納タックリの優れものです。

今なら **7月中にご注文** いただいたお客様を対象に
デザイン制作からの場合は**表示価格より10%**
印刷のみの場合は**5%割引**致します。
この機会にぜひご注文ください。

詳しいご質問・お問い合わせは弊社営業担当まで。

Tel. 03-3881-2131 (代)

イベント

展示会等の
受付店頭での
実演販売

カウンター BOX
¥260,000

本体：プラスチック (PP)
天板：アルミ・木
印刷メディア：合成紙

フラット

サイズ：W730xH980xD450mm

重量：17kg

天板カラー：オーク・パーチ・
アルミニウム・黒・白

※「カーブ」「ビッグ」タイプもございます。

>選べるカバー

天板カラーは①オーク②パーチ③アルミニウム
④黒⑤白⑥プラスチック(黒)からお選びいただけます。

※フラット / カーブに対応 (ビッグの天板は黒のみ)



※カーブのみ